

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-24010

(43) 公開日 平成9年(1997)1月28日

(51) Int.Cl.⁶

A 4 7 L 13/46

識別記号

庁内整理番号

F I

A 4 7 L 13/46

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平7-207290

(22) 出願日 平成7年(1995)7月10日

(71) 出願人 595117161

中家 文夫

岐阜県高山市千島町388番地

(72) 発明者 中家 文夫

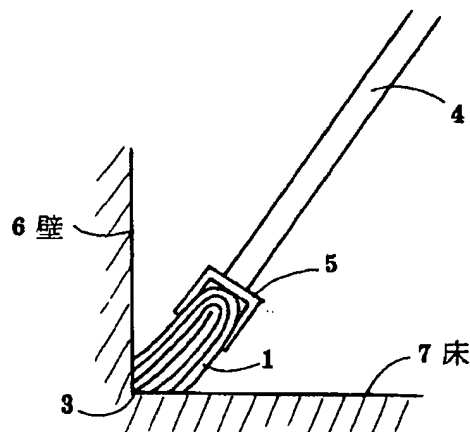
岐阜県高山市千島町388番地

(54) 【発明の名称】 隅隅用清掃用具

(57) 【要約】

【目 的】 この発明は、屋内の壁と床との隅の奥に溜っているホコリ汚れを、から拭きで取り除くための清掃用具に関するものである。

【構 成】 柄4先の保持部5に固定した不織布1の先端部3を壁6と床7との隅へ当てて拭く。



【特許請求の範囲】

【請求項1】厚さ2mm～3mm程度で弾性を有する不織布を数枚重ねて一体とし、その先端部を斜状に形成し、柄先の保持部に於いて不織布部の周りがはみ出る様に固定して成ることを特徴とする隅隅用清掃用具。

【発明の詳細な説明】

【0001】〈産業上の利用分野〉本発明は、屋内の壁と床と棧などの隅隅の奥に溜っているホコリ汚れを、から拭きで取り除くための清掃用具に関するものである。

【0002】〈従来の技術〉従来、屋内の壁と床との隅隅の奥等に溜っているホコリ汚れは湿気等の影響でこびり着いている場合が多く、電気掃除機では完全に取り除く事は難しく、又モップ（乾いた雑巾を含む）の類いでは強く押し付けても腰が無い為に隅隅の奥まで強く当らず同様に困難を有した、更にブラシ状の掃除用具では大ざっぱには取れても白っぽく残って拭き取った状態には至らなかった、また、それ以外にも適当な清掃用具が無く結局から拭きで完全に汚れを取り除きたいとの欲求を満すものはなかった、それと、この隅隅の奥に溜ったホコリ汚れの中は雑菌の温床にもなっているので、どうしても其のままにしておくには非常にきつめ難いという数々の欠陥があった。

【0003】〈発明が解決しようとする課題〉本発明は上記従来の問題点である隅隅に溜っているホコリ汚れを、から拭きで取り除き、更に衛生面に至るまでの数々の欠陥を解消して強い欲求にこたえられるようにした斬新な隅隅用清掃用具を提供するにある。

【0004】〈課題を解決するための手段〉以下本発明を具体化した手段を図面について説明すれば、厚さ2mm～3mm程度で弾性を有する不織布1を第1図の如く数枚重ね（サイズは同じ）て、その真ん中の箇所（図2）に於いて第2図の如く二つ折りにして戻らないようにホチキス2等で止めて一体とする、この場合第2図の如く不織布1の先端部3の中央が突出してその左右は斜状となる、この様に形成した不織布1を柄4の先端に設けて有る保持部5へ不織布1の周りが第3図の如くはみ出る様に差し込み固定して成る。

【0005】〈作用〉次に本発明の作用について説明する。さて前記の様に形成した隅隅用清掃用具を使用するには、柄4先の保持部5に固定した不織布1の先端部3を壁6と床7との隅へ軽く押し当てて拭くことで隅隅の清掃ができる。又、不織布1の先端部3以外の周りに於いては他の箇所の清掃に用いることができる。

【0006】〈実施例〉従って、柄4先の保持部5に固定した不織布1に於いて、厚さ2mm～3mm程度の不織布1はそれぞれが弾性と汚れをキャッチする能力を有しているので、押し付けた場合には腰があって、更に数枚重ねて一体化することでより一層弾性が増大して斜状に形成した先端部3を第4図の如く壁6と床7との隅へ押し付ければ本発明の特徴の一部であるところの不織布

1の一枚一枚の先端が隅の角度に応じて当たるため先端部3全体が隅の奥にまでフィットするものである、よって、軽く押し当てて拭くことで汚れが取れるものである。又、不織布1の先端部3以外の周りの側面等に於いては次の様に使用できるものである、まず第5図の如く家具等の透間8には立てた状態で差し入れて汚れを取る。次に第6図に示す例は冷蔵庫9の下などへは横に寝かせて汚れを取る。更に第7図の如く高い所の棧10などに溜った汚れは端の部分を使って清掃できる。又、第8図の如くほうきの代用としても使用できるものである。なお、前記実施態様の不織布の形成の外に次のように具体化することも可能である。

（イ）前記実施態様での不織布1は数枚重ねて真ん中で二つ折りにして形成しているが、これを大中小と幅が異なった長方形の不織布を第9図の如く中央部に大をその左右にそれぞれ中小の順に先端部3が斜状になるよう並べてホチキス等で止めて形成する。

（ロ）前記実施態様では不織布1の先端部3の斜状は数枚の並べ方で形成したが、これを第10図の如く同じ寸法の不織布同図aの上部を接着剤等で止め一体化した後、先端部を同図bの如く斜状に切断形成すること。

【0007】〈発明の効果〉次にこの発明の効果について説明すると、従来電気掃除機やモップ類では取り除くことが困難を有した湿気等の影響でこびり着いたホコリ汚れを本発明の形成した不織布1が第4図の如く隅の奥に至るまでフィットして確実に汚れを拭き取ることができ効果がある。従って悩みでもあった汚れの中の雑菌の温床も取り除くことができ衛生面においても大なる効果がある。又、第11図の如く不織布1が数枚重ねた状態であるため、その重なり合った間へ汚れ11を次々に食い込む能力を有し、従って不織布1の面積が小さくとも多くの汚れを取ることができ効果がある。更に前記実施態様にもあった不織布1の先端部3以外の周りの部分に於いても、それぞれの箇所に適応した清掃ができる効果がある。それと不織布1の予備を用意しておけば簡単に交換が可能である。従って極めて簡単な動作により迅速かつきれいに清掃できる効果のある斬新なものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施態様を示す斜視図

【図2】本発明の実施態様を示す斜視図

【図3】本発明の全体の実施態様を示す斜視図

【図4】本発明の使用状態を示す側面図

【図5】本発明の使用状態で一部透視を示す斜視図

【図6】本発明の使用状態を示す側面図

【図7】本発明の使用状態を示す側面図

【図8】本発明の使用状態を示す側面図

【図9】本発明の別の実施態様を示す斜視図

【図10】a、b、本発明の別の実施態様を示す斜視図

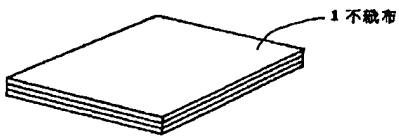
【図11】本発明の使用状態を示す側面図

【符号の説明】

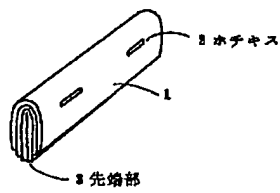
1は不織布
2はホチキス
3は不織布の先端
4は柄
5は保持部
6は壁

7は床
8は透き間
9は冷蔵庫
10は棧
11は汚れ

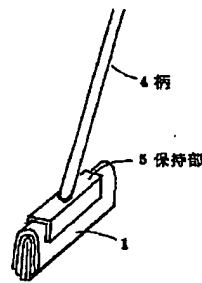
【図1】



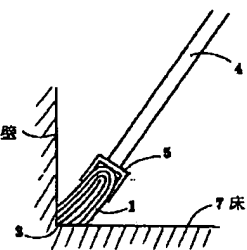
【図2】



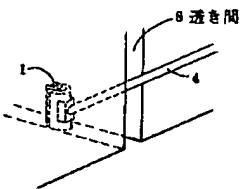
【図3】



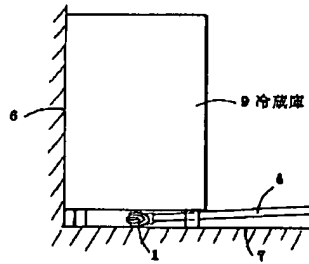
【図4】



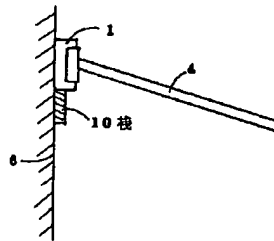
【図5】



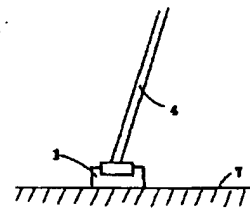
【図6】



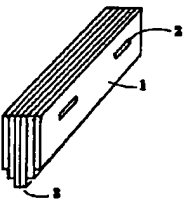
【図7】



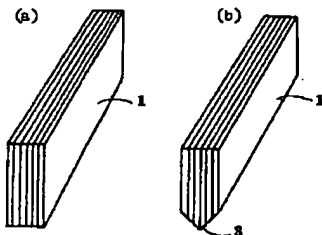
【図8】



【図9】



【図10】



【図11】

